



じ り つ か つ ど う 自立活動だより

令和5年度 第5号
県立鹿児島聾学校 自立活動部
令和5年12月20日

早いもので、今年も残りわずかとなりました。冬休みも元気に過ごして、新しい年を迎えたいですね。

さて、本号では、「冬の補聴器・人工内耳の管理」、「小学部の自立活動の紹介」をお伝えします。



ふゆ ほちようき じんこうないじ かんり 冬の補聴器・人工内耳の管理



★結露に注意

冬は室内と室外の気温差が大きくなります。そのため、チューブやイヤモールドなど、いろいろなところに結露が生じ、トラブルの原因になります。(音が小さくなったり、こもって聞こえたりすることがあります。)

補聴器を外したら、できるだけ早く乾燥剤の入ったケースに入れ、しっかり乾燥させましょう。イヤモールドやフック、チューブなどの水滴は、こよりなどで吸い取りましょう。

★熱に弱い

冬はストーブなど暖房機器を使う機会が増えますが、補聴器は熱に弱いです。

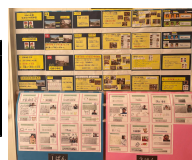
ストーブの近くなど高温になる場所には、補聴器を置かないようにしましょう。

★電池の寿命が短い

補聴器に使われている空気電池は、気温が低いところや乾燥しているところでは、電池の減り方が早くなります。

必ず予備の電池を持ち歩きましょう。こまめに電池の残量チェックをしましょう。電池が冷えている場合は、体温で少し温めてから使いましょう。

しょうがくぶ じりつかつどう 小学部の自立活動について



☆小学部では、教室や廊下の掲示物の工夫も行っています。

○ 学部全体で取り組むことばの学習



〈手話の時間〉

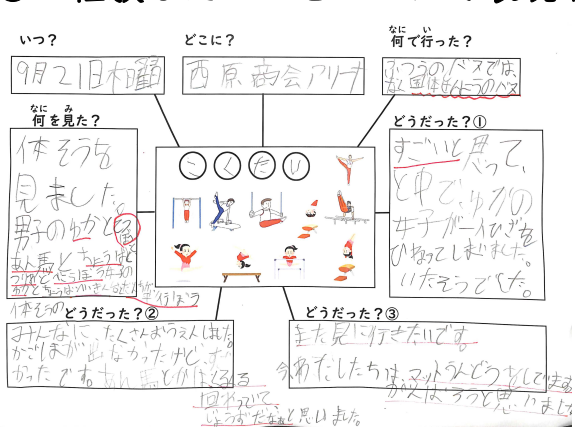


〈読書の時間〉

小学部では、朝の時間に、児童集会、手話、発音、読書の時間などを設定して、ことばに親しむ学習を行っています。

季節や行事に関することばを、手話、指文字、書き言葉、音声などのいろいろな方法でひとつずつ丁寧に表し、ことばを確実に習得できるように学部全体で取り組んでいます。

○ 経験^{けいけん}したことをことばで表現^{ひょうげん}する学習^{がくしゅう}



左のシートは、かごしま国体の体操競技を
観戦した後に子供が書いたものです。
実際に経験したことを、絵、体の動き、手話
などで表したり、ことばで表現したりする学
習としても大事にしています。
運動会、一日遠足、修学旅行、文化祭、交
流学習などの経験と結び付けて、ことばを覚
え、ことばで考えることができるように学習
を進めています。

○ 伝える^{つた}力を伸ば^{ちから}す^{のば}学習^{がくしゅう}

ジューススタンドを想定し、指文字
や手話が分からない店員さんにジュースを注文する学習に取り組みました。
指差し、身ぶり、メモ帳に書く、タブレットの筆談ボードを使うなど、自分にできるコミュニケーション手段を選んで、自分の飲みたいジュースを注文しました。

その他にも、具体的な場面を設定し、自分の気持ちを相手に伝える練習をしています。

ゆび さ つた
〈指差して伝える〉



〈^み身ぶりで^{つた}伝える〉



＜メモ帳に書いて伝える＞



〈筆談ボードで伝える〉



○ 自分^{じぶん}のきこえや障害^{しょうがい}に
かんが^{かんが}え^える^る学^{がく}習^{しゅう}
について

～3月3日「耳の日行事」～
 小学部では、毎年、3月3日
 の「耳の日」にちなんで、聴覚
 に障害のある先輩の話をきい
 たり、自分のきこえや障害につ
 いて考えたりする学習に取り
 組んでいます。

本年度も、2月に「耳の日作
品展」、3月1日(金)に「耳の
日行事」を行います。

冬休みふゆやすみを使ってつか、日頃ひごろ感じてかんていることかんがや考かんがえてかんがいることかんがを、ポスター、標語ひょうご、作文さくぶんにしてみよう。たくさんうごの応募おうぼを待まちっています。



さくねんど さくひん
〈昨年度の作品〉



おはようし じょうご
「耳の日行事」 横話

おはようし じょうご
「耳の日行事」 横話

いかり みよう
おはなしする とや
せんせいの かおと 手を

三葉は
耳たけでなく
心で聴いて

耳の日

五年 有馬 悠愛

生まれて三月ぐくうに聴覚障害と診断されました。二十五週目に生まれて七百八十八グラムでした。ひよこ組の時、ほろろうきでした。耳には合わなか、たので、自分の声も聞こえませんでした。ようちや部の時ぐくうに人工耳の手術をしました。そして人工耳をつけ、みる、少し音が聞こえこうれしか、てです。学校にも、て、たくさん声の練習をしました。上手にぞりました。小學生に、てから、発音検査がありました。去年よりも、上がっていました。かち、と、お音がききです。目、うは、中學生までに、%になりました。ききだけを努力します。

耳でこま、てい事、は、地域の小学校への交流で、人工耳をつけていて、こ、き、るの、分、か、ない、事、で、。地域の小学校で、手話、は、や、て、い、る、解、か、ら、解、ま、し、た、。

妹やお母さんか手話や指文字を使、て表、てくれます。私のため、や、て、く、れ、て、る、の、で、感謝、し、ま、す。耳が聞こえない事、か、分、か、た、時、は、両親は、悲、し、か、つ、た、と、思、い、ま、し、た。私は、耳が聞こえないので、私、だ、け、だ、と、思、た、た、け、ど、私、だ、け、も、な、く、。ようちやに入、。たら、耳が聞こえないお友、だ、ち、が、い、ま、し、た。毎、日、話、を、し、た、り、い、う、い、ろ、な、遊、び、を、し、た、り、い、ろ、な、行事、が、で、き、る、の、を、楽、し、い、で、す。過去、を、忘、れ、ま、す。私は、耳の事を、き、お、し、く、勉、強、し、て、い、ま、す。

覚えてた事は「伝音性、感音性難聴」です。大人にな、。ても、耳が聞こえるようになり、い、け、ど、な、あ、ら、な、い、で、す。これ、れ、も、悲、し、い、け、ど、す。もし聴者が。たら、友、だ、ち、多、か、。た、の、に、う、ろ、う、者、で、く、や、し、い、で、す。

八は「耳が聞こえなくて後悔だ」と言、て、い、い、ま、す。て、も、手話、を、み、ん、な、と、話、せ、く、う、水、い、い、で、す。